

農林水産物及び食品の輸出の現状と 北陸農政局における輸出物流に関する取組

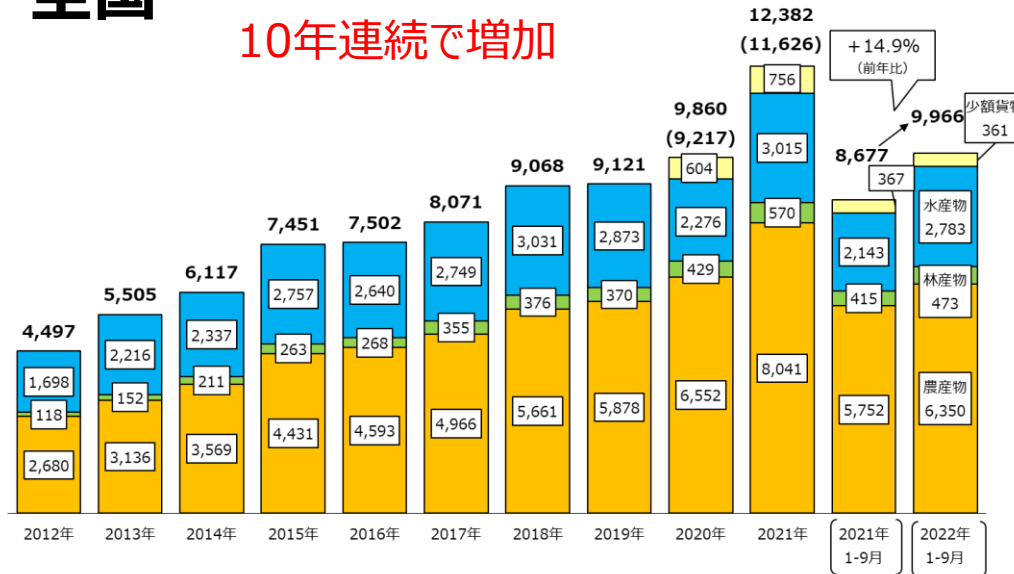


2022年11月
農林水産省
北陸農政局

農林水産物・食品の輸出の現状

全国

10年連続で増加



● 2021 (R3) 年の主な輸出品目 (単位：億円)

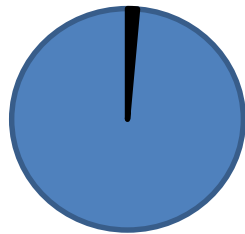
主な輸出品目	輸出額	シェア
ホタテ貝	639	5.2%
牛肉	537	4.3%
ウイスキー	461	3.7%

● 2021 (R3) 年の主な輸出国

主な輸出国	輸出額	シェア
中国	2,223	19.1%
香港	2,190	18.8%
アメリカ	1,683	14.5%

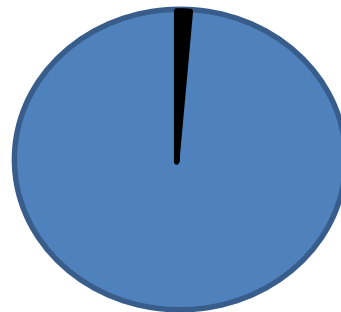
北陸4県の空港・港湾からの輸出額、シェア

11億円、0.2%



2012 (H24) 年

36億円、0.3%



2021 (R3) 年

● 2021 (R3) 年の主な輸出品目 (単位：億円)

主な輸出品目	輸出額	シェア
魚の調製品	9.0	24.9%
コメ	4.8	13.3%
日本酒	4.7	13.0%

● 2021 (R3) 年の主な輸出国

主な輸出国	輸出額	シェア
中国	10.3	28.5%
韓国	6.7	18.7%
香港	6.3	17.5%

北陸農政局の取組① 令和元年度 混載物流可能性調査の概要

背景・ ねらい

- 少量多品目が特徴である北陸地域からの農林水産物・食品の輸出は、太平洋側の港・空港まで小口の貨物輸送を強いられており、これは、物流が整備された大都市圏とは異なる北陸地域固有の課題と言える。
- このため、北陸地域の生産や物流の実態を踏まえた地元港湾を活用した混載輸送の可能性を探るため、①先行する他産地の事例調査、②管内事業者へのアンケート・ヒアリング調査、③関係者間での意見交換を実施した。

先行事 例調査

- 他地域の先進事例として、(一社)北海道国際流通機構、関西・食・輸出推進事業協同組合、九州農産物通商(株)の調査を実施した。

アンケー ト／ヒア リング

- 管内で輸出に取り組んでいる事業者を対象に、各社の輸出経験、輸出の現状、積出港、これまでの輸出トラブル、輸送コスト低減に向けた意見等についてアンケート調査を実施。
- 同アンケート結果(別紙)からは、北陸地域の農林水産物・食品の輸出は、太平洋側の港・空港への輸送が必須で、高額な国内運賃の負担を強いられている実態が浮かび上がった。
また、輸出事業者に対するヒアリングでは、既存の商流を利用して流通事業者のサービス等との連携により定期的な輸出に繋げていくことの有効性が示唆された。

検討会 の開催

- 新潟及び金沢会場において、「混載輸出の可能性検討会」を開催し、事業者と意見交換を実施。
- 同検討会において、輸出事業者からは、北陸地域からの輸出を切望しているとの声が聞かれた一方、北陸地域の商社の中には、相手国との強いつながりを持っている者もいることが紹介されるとともに、輸出関連情報の共有やマッチングを促進させながら、北陸地域からの輸出を目指していく方向性が示された。

アンケート方法

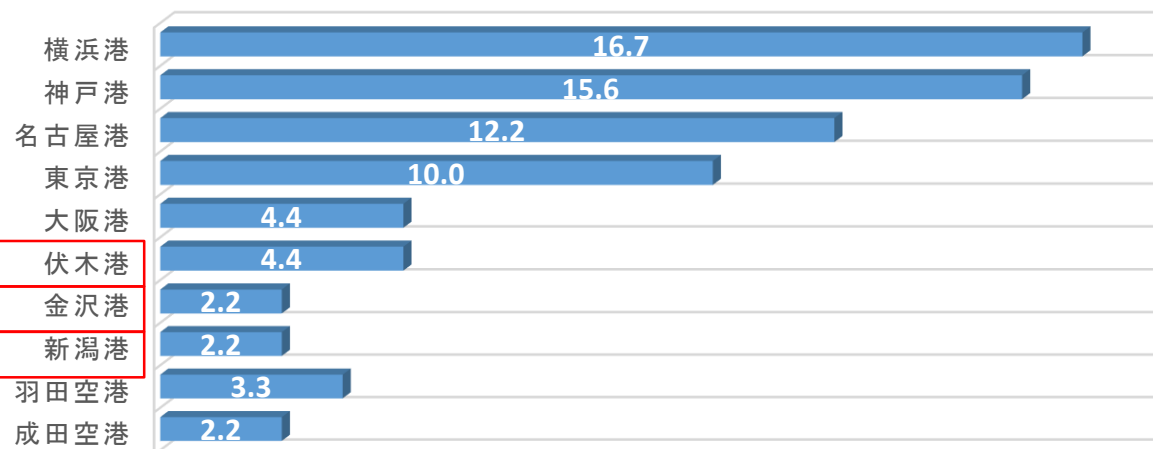
- 調査対象:
輸出に取り組む102社
内訳:新潟県内37社、富山県内18社、石川県内27社、福井県内20社
(北陸農政局が把握している事業者の中から選定)
- 調査実施時期:
2019(令和元)年9月1日～9月27日
- 調査手法:郵送
- 有効回答数:
53社(回収率52.0%)

アンケート結果 (抜粋)

(別紙)

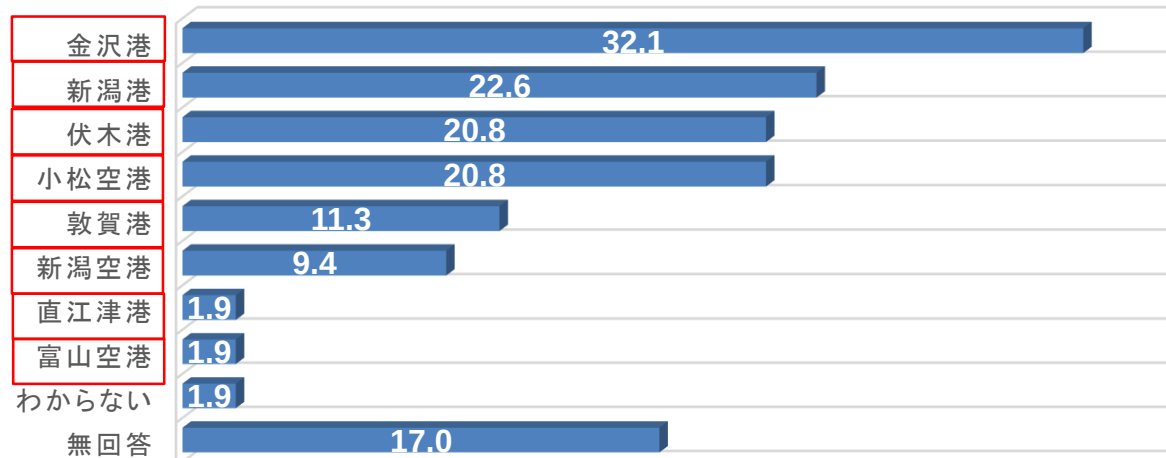
輸出している港・空港

(単位: %)



輸出で使う理想の港・空港

(単位: %)



北陸農政局の取組② 令和2年度 輸出事業者との意見交換の実施

コロナ禍後の輸出促進について

令和2年度は、以下のとおり、混載輸出の具体化に向けた方策等について関係者と意見交換を行った他、局内で今後の推進方策について検討を重ねた。

STEP 1 市場・物流等の変化の把握

輸出事業者、商社、物流事業者の方々にweb会議で国内外での販売、物流の状況、ニーズ、市場の状況を伺い、状況を把握した。

STEP 2 今後に向けた意見交換

- ・現時点での商流、生産・販売等の整理
- ・商流を利用した輸出拡大の可能性の検討

STEP 3 関係者の現状と今後の見通し、現時点の商流を確認・整理し、輸出事業者、商社における商流を利用した輸出拡大の可能性について検討を進めた。
(相手国の輸入拡大や商品リクエスト等の要望の有無についても確認)

STEP 4 具体化に向けた方策の検討

輸出事業者、商社の商流を利用した輸出拡大の可能性を探るため、以下の3商社を中心に、商品リクエストによる混載輸出の可能性について、具体的に検討を行った。

■A社（商社機能も併せ持つ輸出事業者）

	(輸出の状況)	(混載輸出の現状)
香港	○香港へ自社製品コンテナの空きスペースを利用した混載輸出 ○商品リクエストによる商品選定 ○農政局での商品紹介	・令和元年10月に油揚げ、納豆、珍味等をサンプル輸出、令和2年12月の混載輸出は未実施 ・令和3年2月にソフトクリームの商品リクエストが寄せられ、局から富山県の事業者を紹介

■B社（機械製品を輸出・食品輸出にも進出する商社）

	(輸出の状況)	(混載輸出の現状)
シンガポール	○シンガポールの自社現地法人を有し石川県のアンテナショップを運営、高島屋で1月まで開催 ○好評な商品を輸出、現地のドン・キホーテの棚にて販売 ○他にエンドユーザーとして、伊勢丹、東急ハンズ、イロハマート等 ○日本酒を取り扱えるライセンスを取得	・食品輸出に力を入れ、取り扱う量を増やす意向 ・冷凍及び常温で混載輸出に向け検討中 ・令和3年4月に輸出専門部署の設置を予定

■C社（日本酒専門でドイツへ輸出する商社）

	(輸出の状況)	(混載輸出の現状)
EU	○フランクフルトの取引先から日本酒をドイツ、EU全体への販売を検討 ○米国での取引先を模索	・コロナの影響で輸出を停止 ・再開の見通しが立てば協力したい

北陸農政局の取組③ 令和3年度 混載物流実証事業の概要

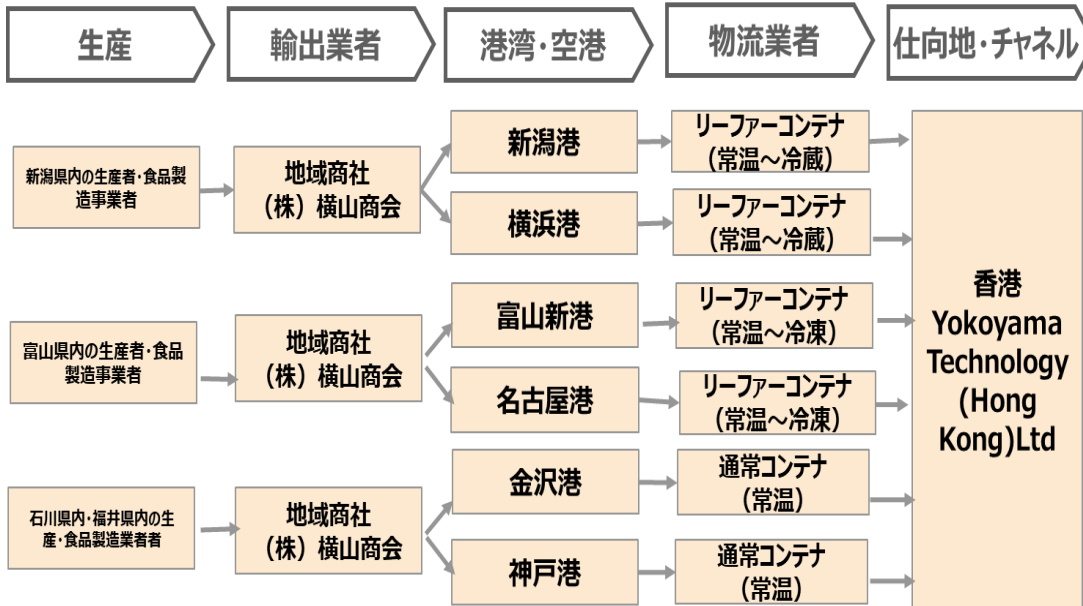
目的

・北陸地域の農林水産物・食品の輸出に係る高品質かつ効率的な輸出物流を構築するため、北陸地域の港から混載輸出する場合と太平洋側の港から混載輸出する場合の輸送コスト、所要日数、品質保持状態等について比較実証を行い、北陸地域の港の輸出基地としての優位性を見いだす。

受託業者：(株) 横山商会
(本社：石川県白山市)

対象品目：精米・パックご飯・味噌・醤油・
日本酒・米菓+α

輸出物流実証の商流



実証のイメージ図



輸送コスト

トータルの輸送コスト

輸送時間

トータルの輸送時間

品質

輸送における品質変化

北陸地域の港

比較実証

太平洋側の港